

1959 謹賀新年 昭和34年



市長	橋	寺	井	本	利	作	惠
助役							
收入役							
市議會							
議長							
副議長							
總務常任委員							
副委員長							
委員長							
民生常任委員長							
副委員長							
經濟常任委員長							
副委員長							
建設常任委員長							
副委員長							
委員長							
教育委員會							
委員長							
教育長							
委員員							
委員員							
選舉管理委員會							
補充員							

委員長　公平委員会  
監査委員　天島内安雄太郎作  
農業委員会　原田浅吉次郎  
太浮万鈴川岩近大谷城中國近西四林近春  
田田才田保腰藤和本川原崎藤村宮　藤木  
吉繁榮定定義　信治徹大福多勇經昌新清  
次太　太喜  
郎光郎一一三一正作郎郎男藏次一吉治作  
久森武　保本田  
總正勝　太之  
郎義助

委員長 副委員長 委員会 副委員会 委員長 副委員長 委員会 副委員会  
消防委員 佐々木道金大近玄田島子番崎村木西國本出幅和島番羽藤野吉西國本出幅  
國民健康保険運営 佐々木道金大近玄田島子番崎村木西國本出幅和島番羽藤野吉西國本出幅  
協議會 佐々木道金大近玄田島子番崎村木西國本出幅和島番羽藤野吉西國本出幅  
委員長 副委員長 委員会 副委員会 委員長 副委員長 委員会 副委員会  
社会教育委員会 社会教育委員会 社会教育委員会 社会教育委員会  
川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田  
鳥瀬出口藤坂本崎田田川村中邊上藤田井道賀川  
久成中中田田川加堀石街佐城  
保 關森島白塩南澤近小松山  
川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田 川 田  
四弘武は 京ト 慶 敏平 進惣竹孝文 重サ徹  
つ 之 次三 力  
郎男男え薰子ラー茂茂進猛雄作勇一治郎郎輔博治工郎  
仁二一三雄輔

委員	農業經濟再建委員會	委員	法定住宅入居者選考委員會	委員	委員長副委員長	委員	勞動會館運營委員會	委員	公民館運營審議會
阿久太菅寺川西鈴國大春道國尾岩 部保田原岡俣村田本村木 崎田腰 助龜吉德喜定勇定次忠清重政林義 一太次	佐森鹿吉岡濱金猪森川 賀本内澤田邊子潮川上 サ正政雄安正長喜弘竹 力 次	忠日角大星長佐山深 光谷島川野藤城瀨 二繁昭仁民寅重丑源 太三 之	久舟保田本立 七助猛助七郎 郎男エラ作勇郎	關島佐澤中中加 賀口川村藤孝三 四武サト平力	南松山尾成 出本崎崎田慶一敏 之 子茂進郎雄				
郎郎吉市一次治郎一作雄明造三	王義藏次也武次男男郎	郎夫郎郎藏茂助勇一猛助七							

## ◆ 防火のおたずね

毎年のことではあります。今年もまた、火災の多い季節をむかえることになりました。どうしてこれから火災が多いのでしょうか。それには気象の関係も大きく影響しありますが、皆さんの家庭において火災の原因となる火気の取扱が大切なのであります。このカードにもとづいてお家の火災予防はどうなつてあるか、研究してみましょう。

もえない台の上にある	つぎ目がわるい	遮熱板がついている
木の台の上にある	づぎ目は完全である	もえない台の上にある
建物のそばにある	屋根より高い	木の台の上にある
こわれている	屋根より低い	あいろん台がない
こわれていない	かべについている	あいろん台がある
もえない台の上にある	かべからとの距離はどうか	こわれている
木の台の上にある	もえない台の上にある	こわれていない
こわれている	木の台の上にある	熱をもつ
こわれていない	ごむかんがわるい	がらつぐ
ふたがこわれている	ごむかんは完全である	熱をもたない
ふたがきちんとしている	熱をもつていろ	被ふくがやぶれでいる
ふたがほかのものでつかつていろ	熱をうたない	接ぞくこうどである
つぼにひじがある	鋼線が入つていろ	こうどがくぎにかけてある
完全なものである	きていのものである	こうどわるいのはない
われている	ニクロム線がわるい	すいじ場はそうじされている
われていない	遮熱板がない	かまどのまわりに紙屑やもえ木がある

上記のらんにあてはまるときは右のらんに○をつけ、ないときは、線を引いて下さい。  
〔鎌倉市消防本部〕

留萌に戸長役場が初めて置かれたのは明治六年の九月で、明治三十五年に二級町村制が施されるまでに八人の戸長が置かれましたが、五代戸長島影嘉氏の次男精氏が旭川に住んでいますので、同氏を春光町の自宅に訪問いたしました。精さんは今年七〇才ですが、昭和二十四年多寄小学校長を退職して、現在は学大附属中学校の先生をしている長男のもとで老後を送つて居られます。が、来意を告げると快よく自室に案内してくれて昔を語ってくれました。私の父は名を幸三と云い会津の出身ですが、留萌の戸長になつたのは明治十六年で、(この頃は嘉よしみ)と改名していた。(当時月給は十二円でした。留萌の戸長は四年間で、明治二十年には苦前の戸長となり、私は苦前で生れました。母の里が留萌で病院を開業していた長尾甲齋という醫者でしたので、子供の頃苦前にて旅をしたもので、その頃病院にあった人力車は大變珍らしいものでした。

私どもが子供の頃の留萌は鯨が沢山とれた時代で、鯨に追われた鯨が濱邊にあり、ザルでこれをすくつたほどでしたよ。又鯨もされた鯨があはれると、上にまたがつて格斗する

「うそ、あれは勇ましいもので  
した。六艘程の舟で鯨を陸  
さな包丁でこれを料理する  
のです。波打ちぎわは血で  
赤になつたものです。こ  
んな晩には祝酒によつた漁  
人たちの間で、けんかが始  
まり、長尾病院え傷の手当  
きたものです。病院は今大  
町にある永福寺の附近に  
軒、薬屋は城川さんとも只  
一軒は名前を思い出せな  
が、たしか二軒あつたと  
憶しています。然し水産  
源に恵まれていた時代で  
から、町民の生活は豊か  
、景気もよく、花柳街が  
んしんを極めた上で、花柳街  
と思ひますが、ストーブ  
病にかかるた娼妓が病院  
治療に來たものですよ。  
冬は今よりまだ寒かつた  
といふが、ストーブ  
などという便利なものはな  
く、焚火でしたので、どこ

日本では平安朝の初め嵯  
峨天皇の弘仁二年（紀元八  
一一年）はじめて宮中で用  
いられたものが、だいに  
民間に広まつたものだとい  
ふ。むかしは十種類に近い  
薬酒を家々で調合して三角  
にぬつた袋にいれて除夜の  
ばんから井戸の中につるし  
ておき元日の朝早くとりだ  
して上等の酒のなかにふり  
だし、一家そろつておそう  
に前に祝い、来客にもす  
ゝめるならいで、松の内を  
すぎると、残りのかすは元  
の井戸になげ、この水をの  
めば年中あたりをしないと  
いわれています。  
水道の発達にともない、  
俗で蘇と呼ばれています。  
これは惡鬼はらう意味だ  
そうです。

袋に入れたものを薬店で売  
りだしましたから便利にな  
つたかわりに薬効がわすれ  
られ、たんに新年の形式と  
なっています。

息災を祝う意味で年少者  
をさきにし、しだいに年長  
者に及ぶならはしです。高  
さいきんでは婦人子供に  
も口あたりがよいのでみり  
んを用いるようになつてき  
ました。

ふつう薬種としては山椒  
(さんじょう) 細辛(さい  
しん) 防風、桔梗(ききよ  
う) 乾姜(かんきょう) 肉  
桂(にくけい) 白朮(びや  
くじゅう) などがまじて  
います。

(平凡社世界大百  
科辞典より)

1959 謹賀新年 小上  
高水 工留英 留英 株式

川木材商事株式會社  
院長後藤秀雄  
社長原田榮一  
常務山崎一雄  
専務岸興作  
取締役社長小林典男  
院長佐藤精一  
室本鐵工所  
会社室本信吉  
所長佐藤精一  
朋フローリング工業所  
会社留萌市開運町丁目二  
取締役社長小野栄一  
野漁業部  
上聯冷藏株式會社  
丁代表二九七・二七五  
高野良二

タバコは市内で  
買いましょう

市内で賣上げた9%は  
市の收入になります。

松のうちに祝儀に用  
この習

いわれ

謹 賀 新 年 昭和34年

院長 後藤秀雄	上川木材商事株式會社
社長 原田栄一	小林歯科醫院
常務 山岸興作	株式會社 室本鐵工所
山崎一雄	院長 小林典男
丁六六八・一二三三〇二	室本信吉
留萌市錦町四丁目四四三	取締役社長 佐藤精一
丁九三九・五一二	留萌市船場町
丁九七二	留萌市開運町 丁目一
高野良二	小野栄
代表二九七・二五七	取締役社長 高野良二
高野漁業部	留萌自動車運輸株式會社